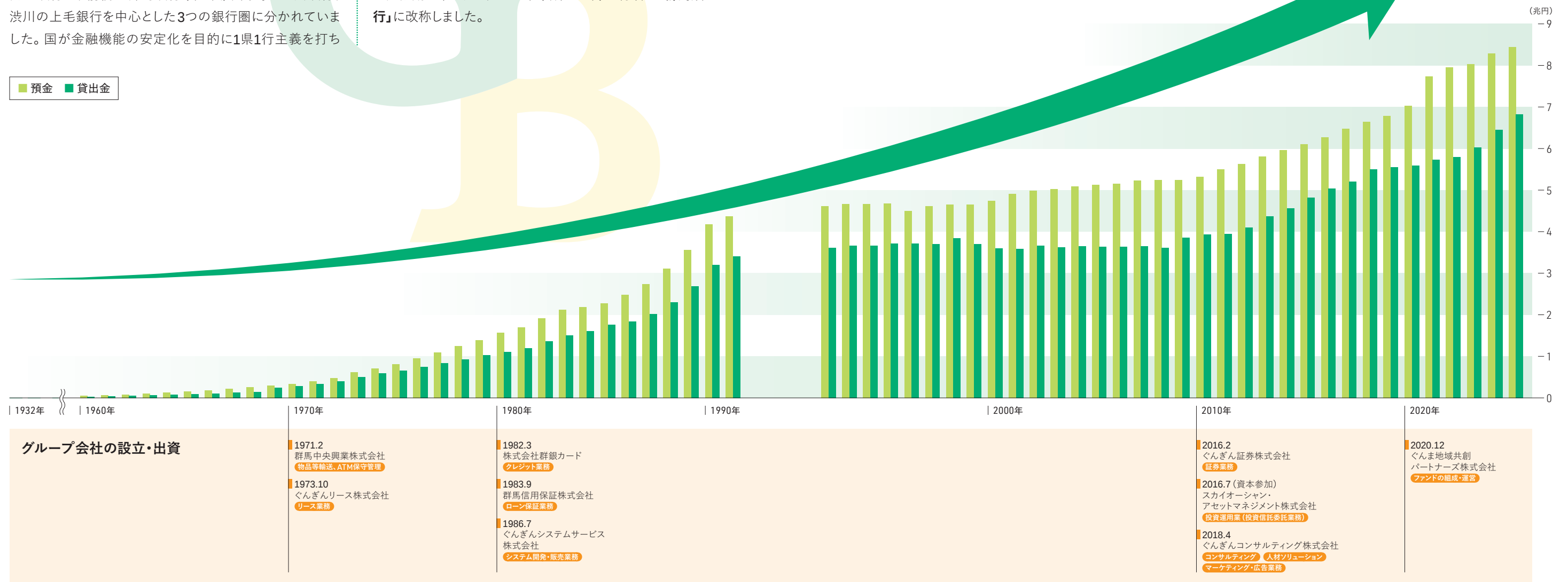


群馬銀行グループのあゆみ

群馬銀行の源流は、1878年（明治11年）の「第三十九国立銀行」の設立まで遡ります。第三十九国立銀行は、1898年（明治31年）に三十九銀行となるなど、形態や名称を変えながら、群馬県内最大の銀行として、繊維産業を中心とする県内企業への資金供給を行っていました。昭和初期、県内の銀行は、前橋の群馬銀行（第2次）、高崎の上州銀行、渋川の上毛銀行を中心とした3つの銀行圏に分かれていました。国が金融機能の安定化を目的に1県1行主義を打ち

出すなか、1932年（昭和7年）に群馬県は自ら出資し、群馬県金融株式会社を設立、同社が群馬銀行（第2次）・上州銀行と合併し、名称を「群馬大同銀行」としました。なお、当行はこの合併を決定した株主総会の開催日（11月20日）を当行の創立記念日としています。群馬大同銀行は、戦中・戦後の混乱期を乗り越え、1955年（昭和30年）に行名を「群馬銀行」に改称しました。

■ 預金 ■ 貸出金



○主な出来事

